

「土地利用型営農技術の実証研究」現地検討会

「土地利用型営農技術の実証研究」の現地検討会が、平成25年7月2～3日に開催されました。1日目は、名取市にある実証試験地において、新技術を導入した圃場や開発機械などを視察しながら、意見交換を行いました。実証試験地では、水田を中心とした高能率・安定多収を実現するための先端技術が集中的に導入されており、低コスト大規模水田農業の実証研究が実施されていました。2日目は、農業・園芸総合研究所内の会議室で、各研究課題の進捗状況や研究推進上の問題などについて検討が行われました。

<現地視察した主な研究内容>

- ・ 中型機械の汎用利用による低コスト3年4作水田輪作体系を実証する試験
- ・ 大区画圃場（3.4ha）におけるプラウ耕乾田直播等を核とした低コスト2年3作水田輪作体系を実証する試験
- ・ 高能率な鉄コーティング湛水直播の実証試験
- ・ 作業マニュアル・経営意志決定支援システムの研究開発
- ・ 機械作業情報のモニタリング及び情報管理技術の開発・研究
- ・ 可変施肥田植機とリモートセンシングに関する実証研究
- ・ フィールドサーバーによる気象・生育情報の長期安定計測の実証研究

<広畝成型播種による大豆作後の水稲乾田直播の実証試験>



※現行の区画（30a）に対応可能な技術として、逆転ロータリーを利用して、広畝成型播種を行った。

※水稲品種「まなむすめ」を4月下旬に播種。

<大区画圃場（3.4ha）におけるプラウ耕乾田直播の実証試験>



※GPSレベラーを用いて圃場を均平化し、乾田直播した水稻。

<鉄コーティング湛水直播の実証試験>

<トラクタの稼働状態を記録する装置の試作>



※スタブルカルチ+サーフロータリー+代かき1回体系を検討。また、無人ヘリ散播と専用点播機の作業能率や収量を比較。

※CANバスを備えたトラクタにより、位置情報、作業機の稼働状態を記録。

<フィールドサーバにより発育予測に必要な気象情報や作物の生育情報を計測>

